医療法人社団日高会
日高病院

病診連携通信

Information

No.21～ No.40

H18.7.25 ～H20.5.30

病診連携通信 No.21 ～ No.40

Information

No.	発行日	主な内容
No.21	平成18年07月25日	日高病院腫瘍センター/講演会のご報告
No.22	平成18年08月28日	H18.1～7月病院基本統計/DPC調査病院
No.23	平成18年10月14日	管理型臨床研修病院/腫瘍センター予約方法
No.24	平成18年11月21日	研修会活動概要のご報告/information
No.25	平成18年12月21日	H18年の主な動き/新聞・雑誌掲載/患者動向
No.26	平成19年01月20日	新年のごあいさつ/日高CCAC建設中/アンケートのお願い
No.27	平成19年02月10日	セカンドオピニオン外来/がん診療相談支援センター
No.28	平成19年03月05日	糖尿病サポートチーム特集
No.29	平成19年05月10日	第2回病診連携アンケート結果/診療科別在院日数とSW体制
No.30	平成19年06月25日	日高在宅療養支援センター開設
No.31	平成19年07月07日	化学療法室の開設/呼吸器内科の診療開始
No.32	平成19年08月08日	内視鏡室 設備導入/新潟県中越沖地震 日高DMAT緊急出動
No.33	平成19年09月07日	群馬大学放射線科との連携 テレカンファレンスシステム導入
No.34	平成19年10月31日	日高病院緩和ケアチーム紹介と活動報告/初期臨床研修医
No.35	平成19年12月07日	糖尿病教室開催/H19年の主な動き
No.36	平成20年01月01日	新年のごあいさつ/各教授による専門外来/新任医師ご紹介
No.38	平成20年02月21日	【号外】国際原子力機関アフリカ理事国大使団 視察
No.38	平成20年03月21日	福島医科大学乳腺専門医 外来担当/ガンマナイフについて
No.39	平成20年05月10日	福島医科大学乳腺専門医/各教授の専門外来/PET-CTについて
No.40	平成20年05月30日	メタボ・糖尿病治療センター開設

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ21
平成18年7月25日
日高病院病診連携室発行

日高病院腫瘍センター7月21日開設

トモセラピー 日本で3台目の導入

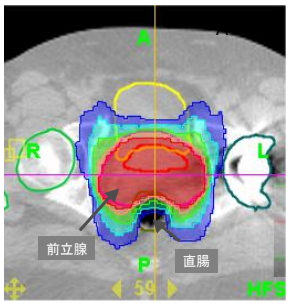
Tomo Therapy【Hi-ART system】

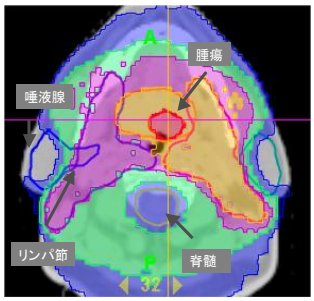
日高病院腫瘍センターは、**放射線治療部とPET／CT画像診断部**で構成されています。腫瘍診断と放射線治療を同時に行うことが可能なセンターです。放射線治療部には治療装置として、全身の病巣に集中照射が可能なﾄﾓｾﾗﾋﾟｰが導入されました。【ﾄﾓｾﾗﾋﾟｰ】とは、数年前にｱﾒﾘｶで開発された治療装置で、CT内部に治療装置が組み込まれている放射線治療装置です。

【ﾄﾓｾﾗﾋﾟｰ】の第一の特徴は、治療機器でありながら、病巣の位置を確認するためのCT撮影ができることです。このため、病巣の位置を確かめてから実際の治療を行うので、正確に病巣に照射することができます。第二の特徴は、がんの形状にあわせるとともに、正常な組織を避けながらCT撮影のように装置が回転しながら照射できることです。正常組織を避ける能力が高いので、副作用が少なくしかも、病巣に正確に照射することが可能です。(IMRT=強度変調放射線治療)

現在、ﾄﾓｾﾗﾋﾟｰによる治療適応は、直腸や膀胱を避けて照射する必要のある【前立腺がん】など骨盤内腫瘍、唾液腺や脊髄を避けて照射する必要がある【頭頸部がん】などがあります。基本的には初期の小さい腫瘍まで全身のがんに利用できます。従来の放射線治療に比べると、がん病巣以外に照射される放射線量が圧倒的に減少したため、副作用も軽減されます。

保険適応され入院日数も短くて済むため、経済的な利点も非常に大きいものです。また、外来通院も可能ですので、生活の質を維持しながら、治療ができることも大きな魅力のひとつです。





A:前立腺癌の治療．近くにある直腸をさけて，前立腺に照射．
B:頭頸部癌の治療．唾液腺や脊髄をさけて，腫瘍とリンパ節に照射．

放射線治療部位

- 頭頸部腫瘍及び脳動静脈奇形
- 脊髄動脈奇形
- 食道癌、乳癌、肺癌など
- 肝臓癌、前立腺癌、膀胱癌など

日高病院腫瘍センターは、トモセラピーのほかに様々な最新検査機器が設置されます。

●PET/CT（東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙ社製　Aquiduo）　2台
●治療計画用CT（東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙ社製　Aqilion）　1台

『FDG-PETの基礎とがん診断における臨床応用』の講演会が行われました

平成18年7月13日（木）に上記、講演会が行われました。今回は獨協医科大学病院　PETセンターのセンター長教授　村上康二先生にご講演頂きました。院内外から170人以上の参加者が集まり、関心の高さが伺えました。

PETの特徴や有用性などを分かりやすくご講演いただき質疑応答では、多数の質問が寄せられました。院外参加者の方々からは、PETの特徴のみならず診断や患者様への説明方法なども参考になったという感想を頂きました。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ22
平成18年8月28日
日高病院病診連携室発行

平成18年1月～7月病院基本統計

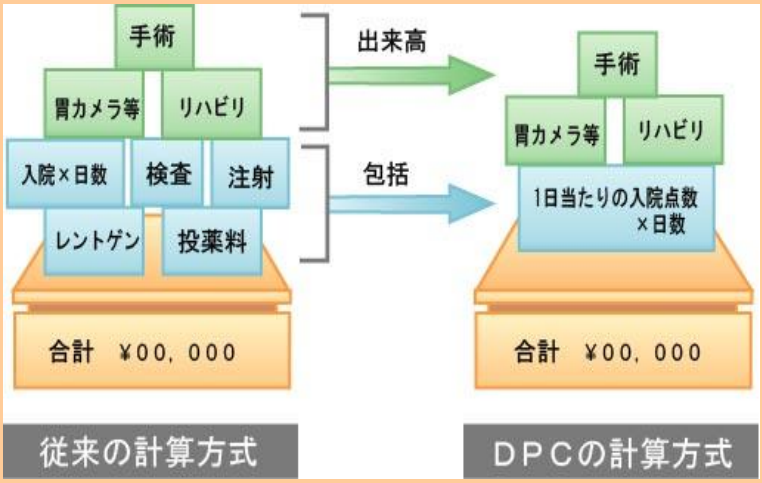
平成18年	救急搬送数	紹介患者数	平均在院日数	支援病院紹介率	入院患者数
1月	189件	291人	11.5日	80.2%	354人
（前年1月）	（153件）	（308人）	（12.0日）	（ー）	（332人）
2月	154件	308人	11.8日	84.1%	320人
（前年2月）	（140件）	（296人）	（12.0日）	（ー）	（308人）
3月	177件	325人	12.0日	80.0%	335人
（前年3月）	（154件）	（295人）	（12.0日）	（ー）	（354人）
4月	123件	312人	11.6日	85.3%	311人
（前年4月）	（153件）	（277人）	（11.8日）	（64.8%）	（306人）
5月	145件	359人	11.6日	87.0%	343人
（前年5月）	（148件）	（262人）	（11.9日）	（71.2%）	（336人）
6月	152件	389人	10.8日	87.4%	377人
（前年6月）	（153件）	（322人）	11.8日	（70.2%）	（342人）
7月	167件	352人	10.8日	81.4%	345人
（前年7月）	（183件）	（320人）	（11.9日）	（72.5%）	（323人）

紹介患者様の約50%は、登録医の先生からご紹介いただいている患者様です。病院関係からの紹介患者様が約20%を占めているため、70%以上の患者様が登録医の先生方と病院の先生方からの紹介患者様という計算になります。今後も地域の先生方から信頼をいただけるよう努力をしてまいります。

DPC調査病院となりました

当院は、今年からDPC調査病院として申請をしてDPC対象病院を目指しております。『DPC』とは医療行為ごとの料金をもとに、請求を算出する従来の『出来高払い方式』とは違い、入院される患者様の疾患や病状をもとに1日当たり定額の点数を基本に、包括で医療費を計算する方法です。1日あたりの定額点数は、診断群分類（約1700分類）と呼ばれる区分ごとに、入院日数に応じて定められています。また、この1日当りの定額点数に含まれているのは、入院基本料や検査、投薬、注射、処置、画像診断などの項目です。（一部除かれるものもあります）手術やリハビリ、その他一部を除くものについては、従来通りの『出来高払い方式』により算定します。現在、約360病院が既にこれらの、算定方式で請求をしています。

今後、急性期病院はこのDPCによる算定方式に移行するものと考えられ、結果的に在院日数の短縮化などが更に顕著になると予想されます。地域診療所の先生方や患者様にご理解を頂けるよう努めまいりたいと考えております。



＊DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略語です。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ23
平成18年10月14日
日高病院病診連携室発行

管理型臨床研修病院として指定を受けました

平成18年9月11日付けで、管理型臨床研修病院として指定を受けました。

当院は、『患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する』という基本理念のもとに、地域医療支援病院、地域災害拠点病院・地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ広域支援ｾﾝﾀｰの承認を受けて地域医療に微力ながら貢献してきました。また、電子カルテや画像システムなどをいち早く導入し、安全で効率的な医療を提供する為の取り組みを積極的に遂行してまいりました。

地域医療のレベルアップにおいて、研修医やレジデントの教育は非常に重要な課題であると認識し、初期研修とそれに続く後期研修への充実した専門性の高い臨床育成プログラムを編成いたしました。
また、プライマリ・ケア、救急医療の実績は、急性期から回復期リハビリテーション、そして退院後の在宅システムへとシームレスな受け入れ体制の中で研修をして頂ける環境を整備いたしました。

今後の地域医療を担う研修医の先生方には、急性期、亜急性期、在宅という第一線現場を経験して頂き、実践で活躍できる実力を灌養していただくことを期待いたします。

日　高　病　院
院長　安藤　義孝

腫瘍センターの予約方法について

腫瘍センターの予約方法についてご案内致します。まず、当院にお電話をいただき、氏名・生年月日を伺います。PET/CT撮影日時やトモセラピーの診察時間を決定し、速やかに予約票をFAXさせていただきます。

① 日高病院にお電話をしていただきます。（TEL：027-362-6201）
② その場で、検査や診察の日時を決定しお伝えいたします。
③ 患者様のお名前や生年月日を教えていただきます。
④ 紹介元医療機関の先生方の了承を得ることができれば、ご自宅などの電話番号をお聞かせいただく場合がございます。

① 検査日時やご予約時間・当日の注意事項などが記載されている予約票を速やかにFAXさせていただきます。
② 診療情報提供書と予約票を患者様にお渡しください。

以上で、予約終了です。

腫瘍センターはこの様なサービスも提供しています

● **訪問説明サービス**

初めての診察や検査を受けるにあたって、患者様が不安になってしまうケースもあるようです。
この様な、患者様に検査手順など説明をさせて頂いたり、パンフレットなどをお持ちして施設説明などをさせて頂くサービスです。

● **送迎サービス**

入院中の患者様がPET/CT検査などを受ける際、ご家族等がどうしても送迎できない場合もご相談ください。同日に数名の患者様のご予約を頂ければ送迎のご相談を賜ります。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

No24
平成18年11月21日
日高病院病診連携室発行

研修会活動概要のご報告

当院は、地域医療支援病院として地域医療機関の様々な医療スタッフ向けの研修会を企画してきました。特に、10月に開催させていただいた　横浜総合病院　ホスピスケア認定看護師　中里　陽子先生における『がん疼痛の緩和ケアの臨床』は院外出席者が35名とがんや疼痛管理などの関心の高さが伺えました。

また、土屋内科医院院長　土屋　智先生による『COPD検査と治療』群馬大学附属病院　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部長谷川　信先生による『アセスメントから始める呼吸リハビリテーション』は院外出席者が56名にものぼりました。今後は、【がん】シリーズ研修を企画したいと考えています。

日付	演　題　名	講　師
4月12日	『選ばれ続ける病院づくりに向けて』	ヘルスケア経営研究所代表　萩原　輝久先生
4月13日	『厚生労働省研究事業中小規模病院感染監視ｼｽﾃﾑ』	日高病院　検査技師主任　八束　眞一
5月16日	『保健・医療・福祉・居宅介護ｻｰﾋﾞｽﾈｯﾄﾜｰｸづくり』	ヘルスケア経営研究所　八尋　敏雄先生
5月25日	『整形外科で行っている組織修復と再建』	日高病院　整形外科主任医長　黒沢　一也
5月31日	『群馬県産青梅の加熱濃縮果汁【ﾐｻﾄｰﾙ】の抗腫瘍効果ならびに、その搾り粕を利用した入浴剤【湯梅（ゆめ）】のｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎改善効果』	高崎病院統括診療部中央診療部長　鈴木　良彦先生
6月14日	『知っておくべき療養担当規則』	ヘルスケア経営研究所所長　八尋　敏雄先生
7月2日	動作分析研修会　『端坐位からの立ち上がり』	日高病院
7月13日	『FDG－PETの基礎とがん診断おける臨床応用』	獨協医科大学教授　村上　康之先生
7月26日	『広報活動と医療ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ』	ヘルスケア経営研究所所長　八尋　敏雄先生
8月9日	医療従事者の安全対策（ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ』	ヘルスケア経営研究所代表　萩原　輝光先生
9月25日	機能的疾患定位トレーニング（9／25～9／27）	日高病院
9月27日	『ｽﾀｯﾌ・職員1人ひとりの役割』	ヘルスケア経営研究所代表　萩原　輝光先生
10月12日	『がん疼痛の緩和ケアの臨床』	横浜総合病院　中里　陽子先生
10月18日	『COPDの検査と治療』	土屋内科医院　土屋　智先生
	『アセスメントから始める呼吸リハビリテーション』	群馬大学附属病院　長谷川　信先生

10月12日
中里　陽子先生
『がん疼痛の緩和ｹｱの臨床』

10月18日
土屋　智先生
『COPDの検査と治療』

information

日頃より、地域連携にご協力をいただき大変感謝いたしております。日頃の感謝を込めて、地域の先生方に以下の料金でPET/CT健康診断をご提供いたしたいと思います。ぜひ、ご利用くださいませ。

● ***PET／CTスクリーニングコース***
PET/CTと腫瘍マーカー（CEA　AFP　CA19-9）
~~¥121，380~~ ⇒ **¥84，966**

所要時間　3時間でできる『がん健診』のﾍﾞｰｼｯｸｺｰｽです。PET／CT+採血のみなので、お忙しい先生方にはﾋﾟｯﾀﾘのｺｰｽです。

● ***PET／CTスタンダードコース***
スクリーニング+ペプシノーゲン　上腹部エコー
~~¥131，355~~ ⇒ **¥91，949**

肝腎要の上腹部ｴｺｰをｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｺｰｽにﾌﾟﾗｽさせました。肝臓・腎臓がんの発見率をより高めることができる安心ｺｰｽです。

お問い合わせ先　日高病院人間ドック直通電話：027－362－1944

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ25
平成18年12月21日
日高病院病診連携室発行

本年も大変お世話になりました

本年も、地域医療機関の先生方には大変お世話になり、感謝をいたしております。当院の1年の動きを先生方にご報告し、来年もさらなるご期待にお応えできるよう、精進する所存でございます。来年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日　高　病　院
院　長　安藤　義孝

【日高病院　平成18年の主な動き】

月	主　な　動　き
1月	ぐんま経済新聞　1月1日号　医療面でガンマナイフセンターが紹介・掲載されました。 NST教育認定施設として群馬県より指定を受けました。
3月	第3回 災害拠点病院として、高崎医師会・消防局と合同災害訓練を行いました。
4月	群馬県代表として、当院の災害医療支援チーム（DMAT）が東京災害医療センターで研修を受けました。
5月	日高病院ホームページをリニューアルし、登録医検索機能を設けました。
6月	DPC準備病院の申請を完了させて、診療データの提出を開始しました。
7月	腫瘍センター（放射線治療部・PET/CT画像診断部）を開設し、強度変調放射線治療を開始しました。 ぐんま経済新聞　7月20日号　医療面でトモセラピー（放射線治療機器）が紹介・掲載されました。
8月	医療タイムス　8月21日号 【グラフ北から南から】に日高病院が紹介・掲載されました。
9月	管理型臨床研修病院として指定を受けました。
10月	地域がん診療連携拠点病院の指定に向けて、緩和ケアチームを発足しました。
11月	第4回地域医療支援病院運営委員会を高崎市長をはじめとした委員様、高崎病院様と合同で開催しました。

【新聞・雑誌掲載】

先進的な放射線治療
国内3台目「トモセラピー」
日高病院 腫瘍センター開設

ぐんま経済新聞　7月20日号

30年で病床数が10倍に
急速な発展遂げ地域医療の中核担う
待望の「腫瘍センター」が始動
放射線診療の新たなステージに挑戦

医療タイムス
8月21日号

【平成17・18年1月～11月の患者動向】

項　　目	平成17年	平成18年	備　　考
紹　介　率	71.9%	84.3%	12.4%の上昇です。11月紹介率は89.2%となり最高値です。
救急搬送数	1，722名	1，769名	高崎市で発生した搬送数の23%程度を占めております。
紹介患者数	3，290名	3，705名	415名の増加です。
入院実患者数	3，642名	3，783名	141名の増加です。
平均在院日数	11.6日	11.2日	0.4日短縮された事で、入院実患者が増加したと予想できます。
登録医の先生方	160名	185名	新規で登録医になって頂いた先生方が25名おります。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ26
平成19年1月20日
日高病院病診連携室発行

本年もよろしくおねがい致します

今年も、大きな診療報酬制度の構造改革がありその中心は、『良質な医療を提供する体制の確立』とされております。患者を淀みない流れに乗せる連携や医療機関の機能を透明化する動きが具体的になってきております。

また、今までいわれてきた『保健・医療・福祉複合体』とは意味合いが違った『地域ケア整備構想』が注目されているところでございます。この様な医療制度構造改革が行われるなか、地域医療支援病院として、以下の事項に取り組んでまいりたいと考えております。

①地域がん診療連携拠点病院を目指し、地域住民のがん診断および治療に貢献いたします。

②日高ｺﾐｭﾆﾃｨｰｹｱｾﾝﾀｰ（仮称）を開設し、幅広い年齢層の地域住民相談に対応いたします。

③良質なサービス提供と利用者本位を基本姿勢として、職員教育を実践いたします。

本年も皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日高病院院長　　安藤　義孝

日高ｺﾐｭﾆﾃｨｰｹｱｾﾝﾀｰ(CCAC)建設中

平成19年6月竣工予定

在宅生活を継続できるよう支援することが、当法人の目指す介護です。そのため、訪問系・通所系・短期入所系ｻｰﾋﾞｽを充実させてまいりました。

また、高齢者のみでなく、幅広い年齢層の住民相談に対応し、新たな社会ｻｰﾋﾞｽを創造したいと考えております。特に育児支援のサービスを通じて若い世代を応援し、活気ある地域づくりの一助を担えるよう尽力する所存でございます。

MWS日高　代表取締役　　小池　欣一

ｼｮｰﾄｽﾃｲｾﾝﾀｰ　37床　（全室個室）
介護量の軽減のために一時的に入所できる施設です。ご家族の冠婚葬祭や休息、また在宅介護が困難になってきた場合などに便利です。

ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ　40名
健康ﾁｪｯｸや入浴、ﾘﾊﾋﾞﾘ、入浴などを実施いたします。送迎付きで、ﾘﾊﾋﾞﾘや介護ﾌﾟﾗﾝなども個別作成致します。

訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ　看護師5名　理学療法士2名
地域の先生方からの指示書で訪問看護を行います。

訪問入浴・ﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝ
寝たきり、ﾚｽﾋﾟﾚｰﾀｰ、CVｶﾃの患者様のご自宅に伺い、入浴や身体介護をを行います。

学童保育や病児保育ｻｰﾋﾞｽも検討しております。

連携室からアンケートのお願い

本年も、院内情報（病診連携通信）・医療情勢（FAX通信）を継続したいと思っております。そして更に、先生方のニーズを把握させていただいた上で、日高病院のサービスを向上させたいと考えております。そこで、2年前にも実施させていただいたアンケートを配布させていただきました。ご記入していただいたうえで、ご返送頂ければ幸いに存じます。よろしくお願い申し上げます。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ27
平成19年2月10日
日高病院病診連携室発行

セカンドオピニオン外来を開設いたしました

平成19年2月1日より、セカンドオピニオン外来を開設いたしました。セカンドオピニオン外来とは、現主治医の以外の医師から診断内容や治療方法について聞きたいという患者さまのご要望をお聞きし、主治医の先生方との良好な関係を保ちつつ、納得のできる診断や治療方法をご提示するというものです。
腫瘍センターを開設してから、県内外から多くの患者さまが来院し、ご相談をお受けしておりました。
特に、放射線治療についてのセカンドオピニオンを求める患者さまが多いため今回の開設にいたりました。

セカンドオピニオンを受けられる方

患者さまご本人、もしくはご本人から同意を得たご家族

ご持参いただくもの

診療情報提供書Ⅱ（セカンドオピニン用紹介状）・ 血液データや画像検査結果など

相談日と予約方法

月曜日　9時～12時
水曜日　14時～17時
金曜日　14時～17時

完全予約制となっておりますので、お電話でお申し込みください。

日高病院腫瘍センター　：　027-362-6201
予 約 受 付 時 間　　：　月曜日～土曜日　8:30～17:30

料　金

30分以内の場合	30分を超えて60分以内の場合	60分を超えた場合
¥5,250	¥7,350	¥10,500

がん診療相談支援センターを開設いたしました

当院では、日高病院の患者さまからの相談にかかわらず、患者さまご本人やご家族、また地域の医療機関等からの相談に対応する体制を整備いたしました。

相談窓口　：　日高病院1階相談カウンター
相談時間　：　月曜日～土曜日　8:30～17:30（この限りではありません）
相談内容　：　各医療機関や医療従事者に関する情報の収集や紹介
セカンドオピニオンが可能な医療機関のご案内
患者さまの療養上の相談（在宅相談・メンタルフォローなど）
各地域による、かかりつけ医（主治医）などのご紹介
専任相談員：　日高病院病診連携室
医療ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ・ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰ　長谷部　純

厚生労働省は都道府県別の医療計画を通じて『がん』をはじめとした様々な疾患で地域医療連携の構築を目指すとしております。さらに、病院や診療所についてはそれらを構築することを努力義務であると言っております。当院としては、社会的責務として、がんや糖尿病・呼吸器疾患などを対象に病診連携・地域連携を醸成したいと考えております。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ28
平成19年3月5日
日高病院病診連携室発行

糖尿病サポートチーム特集

当院では、看護師・管理栄養士・臨床検査技師が糖尿病療養指導士として資格を有し、高橋正樹診療部長をリーダーとして糖尿病サポートチームを結成致しました。 チームメンバーとして、薬剤師や理学療法士も加わり充実した『糖尿病教育入院』『糖尿病教室』を提供できる体制となりました。 診療所の先生方や地域の患者様にご満足頂ける糖尿病トータルマネージメントを目指していきたいと考えております。

短期教育入院(2泊3日)をもうけました

基本プラン	2泊3日	1週間	2週間
自己負担金額	¥50,000	¥120,000	¥250,000

＊上記の費用は、目安ですので患者様の症状などによって異なりますことをご了承ください。
＊2泊3日を除き高額療養費の対象となりますので、ご相談くださいませ。

指導報告書を作成してお届けいたします

当院独自の『糖尿病療養指導シート』に医師・看護師・管理栄養士・薬剤師理学療法士・臨床検査技師などが、各々の見地から指導させて頂いた内容を記載し報告書として先生方にお届けいたします。

糖尿病教室を開催いたします　information

ご多忙な患者様から、短期による教育入院もできないとのお声が寄せられておりました。そのような患者様を対象に『糖尿病教室』の開催を予定しております。

さらに先生方の患者様を対象とした**『出張糖尿病教室』**も可能です。 患者様を数人集めて頂ければ、当院の糖尿病サポートチームがお伺いいたします。

糖尿病教室の例

時　間	内　　容	担　当
11:00～11:30	血糖値はどうして重要なの？	検査技師
11:30～12:00	食べたい！そして健康にもなりたい人のために	管理栄養士
12:00～13:00	昼食　　～ ご自身の適正な食事量を実際に計って頂きます ～	
13:00～13:30	サプリメントの意外な落とし穴	薬剤師
13:30～14:00	どんな運動の仕方が良いの？	理学療法士
14:10～14:40	初心者でもできるアロマを使ったストレス解消法 ～ アロマセラピー資格者が教えます ～	看護師
14:40～15:10	糖尿病専門医からのメッセージ	医師

『出張糖尿病教室』の場合は、上記のメニューに限らず先生方のご意向に添ったプランを相談させて頂きます。

お問い合わせ先　日高病院 糖尿病ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ 担当 八束(やつづか):027-362-6201

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ29
平成19年5月10日
日高病院病診連携室発行

第2回病診連携アンケートの結果をご報告します

平成19年1月に高崎安中二次医療圏の診療所を中心に連携アンケートを送付させて頂き、85診療所の先生方にご回答頂きました。 アンケートを送付させて頂きました先生方には、結果を同封させていただきましたので、ご査収頂けますようお願い致します。

先生方からの貴重なご意見は、診療会議ならびに医局会で発表し周知させて頂きました。結果を真摯に受け止め今後の院内体制の充実に役立たせるように致します。この紙面では、簡単にアンケート結果をご報告させて頂きます。

【当院に期待すること】について

第1位　紹介患者の受入れ
第2位　救急患者の受入れ
第3位　検査機器利用
第4位　逆紹介
第5位　研修会・講習会の開催
第6位　専門スタッフの派遣

【当院への不満】について

第1位　入院を断られた
第2位　紹介患者を断られた
第3位　紹介患者の経過報告がなかった
第4位　診療科や先生の専門が分からない
第5位　紹介した患者からクレームがあった
第6位　連携室の対応が遅い

【今後希望する研修会の内容 】について

第1位　症例検討会・各診療科の疾患について
第2位　医療体制や情勢の総論的な展望について
第3位　心の健康やカウンセリングについて
第4位　各職種別の研修会
第5位　介護保険や在宅ネットワークについて
第6位　医療安全対策や感染対策について

＊アンケート結果を同封させて頂きました

各診療科別の平在院日数とソーシャルワーカーの体制について

各診療科でカンファレンスを定期的に行っております

診　療　科	平均在院日数
内　　科	16.3日
腎不全科	20.6日
外　　科	10.9日
心臓血管外科	19.1日
整形外科	19.4日
泌尿器科	5.3日
眼　　科	4.6日
脳　外　科	8.6日
歯科口腔外科	4.7日

左記の様な平均在院日数のため、定期的なカンファレンスはもちろんのこと、毎日ショートカンファレンスを施行しています。リスクファクターが複数の患者様の場合には早期介入が可能であるため、入院診療計画に不備がないかチェックすることも可能になります。

社会的な援助が必要である患者様の場合には、退院時に診療情報提供書だけでなく、ソーシャルワーカーによる相談経過記録表も送付させて頂いております。地域の先生方も、社会的な問題を抱えている患者様の場合には、診療報提供書にその旨をご記入いただければ、ソーシャルワーカーが積極的に相談対応をさせて頂きます。

information

- 外来化学療法室を開設。次号では、化学療法室を特集させていただきます。
- 5月31日（木）18:30～　講演会 『病気になるとは・・・』 高崎健康福祉大学教授　渡辺　俊之先生

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ30
平成19年6月25日
日高病院病診連携室発行

日高在宅療養支援センターを開設致しました

急性期医療から、回復期・慢性期とシームレスでよどみない連携を実現するためには、在宅療養を支援する機能を欠くことはできません。『老いること』『障害をもつこと』『子育てのこと』を気軽に相談でき、打ち明けることができる場所。そして、全ての年齢層の方々からのご相談を受け、様々な情報を発信できるセンターを目指します。
そして、地域の先生方、医療スタッフから愛されるよう努力精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

事業部長　北嶋　史誉

日高在宅療養支援センター全景
（日高病院の北側隣接）

利用法Ｑ＆Ａ

Q　患者さんに退院方向で話しを進めているが、在宅生活に自信がないらしい。
A　介護認定を受けていれば介護度にあわせたショートステイが利用可能です。在宅復帰への不安解消に必要な準備をすることができます。

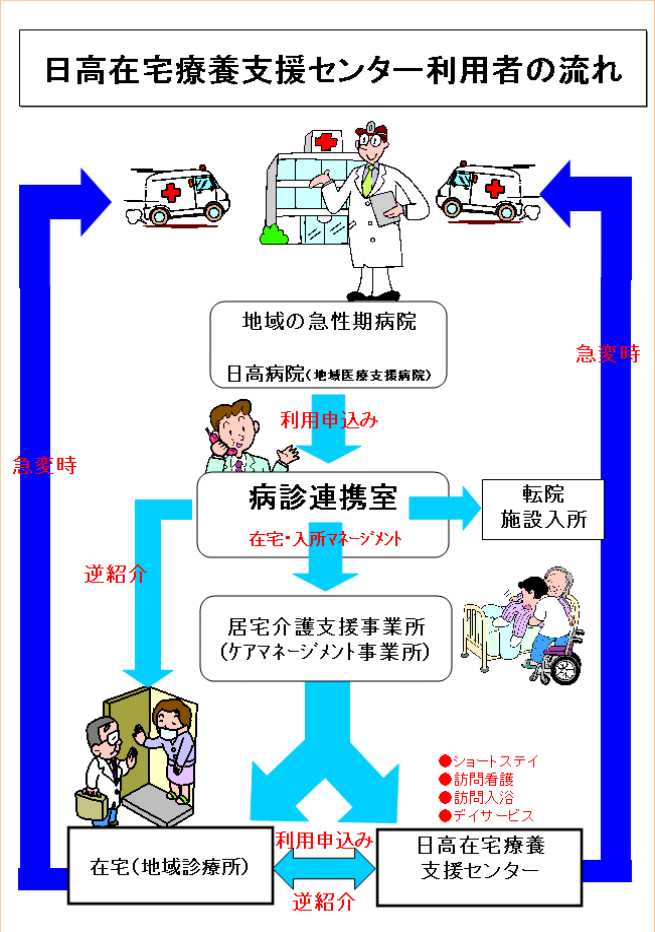
Q　往診している老老介護の介護者が入院してしまった。被介護者をどうしたらいいだろう？
A　緊急ショートステイにも対応可能です。37室の個室をご用意しております。

Q　長期滞在も可能なの？
A　長期滞在も可能です。自宅の大幅な改修や老人ホームの入所待機にご利用していただけます。

Q　要介護度1の利用者を7日間お願いしたいのですが・・・費用はどれくらい？
A　食費・個室費用など込みで**約3万円**くらいです。

サービス内容

- 居宅介護支援事業（ケアマネージメント）
- 訪問介護事業（ホームヘルパー）
- 訪問入浴事業
- 訪問看護ステーション事業
- 通所介護事業（デイサービス）
- 短期入所生活介護事業（ショートステイ）
- 学童クラブ



お問い合わせ・ご相談は・・・

365日24時間でご相談を承ります。お気軽にどうぞ！

TEL:027－362－0691　担当:渡辺　五十嵐
FAX:027－362－1420
高崎市日高町349番地（日高病院の北側隣接）

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ３１
平成19年7月7日
日高病院病診連携室発行

腫瘍センターに新たな機能が備わりました ～化学療法室の開設～

写真左）茂木　政彦医長
写真右）埼玉医科大学国際医療センター
包括がんセンター　教授
小林　国彦先生

平成19年6月1日より、化学療法室がオープン致しました。埼玉医科大学国際医療センター包括がんセンター　呼吸器病センター内科の教授である小林国彦先生をアドバイザーとしてお招きし準備を進めてまいりました。

がん治療は手術療法・化学療法・放射線療法に種別されますが、がんの種類や初発、再発等によって治療方法が変わってきます。
例えば、胃・腸等の消化管の初発のがんは、手術療法が中心ですが、再発の場合は化学療法が中心となっております。昨今、化学療法はがん治療において、非常に重要な地位を占めてきております。

従来、化学療法は長期入院が必要でした。抗がん剤の進歩が目覚しくまた、副作用を抑える治療法が発達したため、外来で治療が可能となりました。外来がん化学療法は患者様が社会生活を続けながら治療できる有効な手立てです。今後は外来化学療法を通し、地域医療に貢献する所存でございます。先生方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

外科医長　茂木　政彦

当院1階の外来に設置された化学療法室

- **対象疾患:食道・胃・直腸・肝胆膵など消化器がん 乳がん・肺がん**
- **治療場所:日高病院1階の化学療法室**
- **外 来 日:月曜日から金曜日(午前9時～午後5時) (完全予約制となっております)**

【外来化学療法導入までの流れ】

日高病院の紹介外来を受診(診断・治療方法決定・治療同意)
↓
化学療法の教育・指導・副作用確認のため、初回のみ入院で施行
↓
2回目以降の化学療法は外来で施行

＊他院で化学療法を継続中の患者様は、入院せず外来で施行可能です

呼吸器内科の診療がスタートしました

埼玉医科大学国際医療センターの小林国彦教授と齊藤恵理香先生が非常勤で紹介外来を担当することになりました。

診　察　日　：　木曜日(午前9時～午後12時)　金曜日(午後2時～午後5時)
担　当　医　：　木曜日⇒齊藤恵理香先生　　金曜日⇒小林国彦教授

紹介方法は、他科と同様です。(事前に病診連携室へご連絡ください。その場で日時を決めさせて頂きます)

information

- 7月18日(水)18:30～　講演会『排尿ｹｱ勉強会』～在宅編～　日本ｺﾝﾁﾈﾝｽ協会　牧野　美奈子先生
- 7月20日(金)18:30～　講演会『外来化学療法』　埼玉医科大学国際医療ｾﾝﾀｰ教授　小林　国彦先生

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ32
平成19年8月8日
日高病院病診連携室発行

内視鏡室に新しい設備を導入しました

当院内視鏡室では、より確実な診断・治療を行うため、最新の内視鏡システム「OLYMPUS EVIS LUCERA」を2台導入致しました。特殊光観察機能（NBI）が搭載されているため、粘膜表面の血管や粘膜微細模様（ピットパターン）の観察が行え、癌の早期診断に威力を発揮します。また、吐下血の際の止血処置や内視鏡治療の一つである内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）をより安全で確実に行うために、最新鋭の高周波装置（VIO300D）やアルゴンプラズマ凝固装置を導入致しました。また、7月から健康診断の方を対象に経鼻内視鏡を開始致しました。
当院で導入したスコープ経鼻内視鏡は、咽頭反射が少なく検査中会話ができ、苦痛の少ない内視鏡検査です。患者様の病態やご希望により適切な方法を提示できると同時に、患者様自身による選択も可能となります。 今後も侵襲の少ない、また安全な検査を実施していける内視鏡室にしたいと考えております。

写真左）VIO300D高周波装置
写真右）電子内視鏡ｼｽﾃﾑ（NBI対応）

内視鏡外科部長　大澤　清孝

機　　器	特　　徴
電子内視鏡システム（NBI対応） 2セット	ﾊｲﾋﾞｼﾞｮﾝ対応、特殊光観察機能（NBI）：がんの早期診断に有用な観察方法が可能です。
高周波装置 2台	粘膜剥離やﾎﾟﾘｰﾌﾟ切除などに必要不可欠な装置です。
アルゴンプラズマ凝固装置 1台	ｱﾙｺﾞﾝｶﾞｽによる凝固・止血装置です。止血法の選択肢が増えました。

【今回導入されたｽｺｰﾌﾟ】

スコープの種類	特　　徴
OLYMPUS H260 2本	ﾊｲｸﾞﾚｰﾄﾞﾓﾃﾞﾙ（ﾊｲﾋﾞｼﾞｮﾝ対応） 高画質・大画面でより確実な診断・治療を行うことができます。
OLYMPUS Q260 2本	従来のｽｺｰﾌﾟと同外径でありながら、より高解像度の高いｽｺｰﾌﾟです。
OLYMPUS XP260N 3本	経鼻ｽｺｰﾌﾟで先端外径5mm
OLYMPUS Q260J 1本	処置用ｽｺｰﾌﾟで粘膜下層剥離術や止血など緊急内視鏡の際に有用です。
OLYMPUS JF260V 1本	十二指腸ｽｺｰﾌﾟでERCP・ESTなどの検査・処置の増加に伴い導入しました
OLYMPUS H260 2本	ﾊｲｸﾞﾚｰﾄﾞﾓﾃﾞﾙ（ﾊｲﾋﾞｼﾞｮﾝ対応） 下部内視鏡硬度可変機能を搭載しています。

新潟県中越沖地震 日高病院DMATが緊急出動

Disaster Medical Assistance Team
災害派遣医療ﾁｰﾑ

DMATとは・・・

専門的で特殊なﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを受けた医療ﾁｰﾑのことを指します。群馬県の中で、厳しい研修を修了したﾁｰﾑは、当院ﾁｰﾑの他に群馬大学病院・前橋赤十字病院済生会前橋病院・利根中央病院・伊勢崎市民病院のﾁｰﾑのみです。災害発生直後の出動要請により迅速に現地に出向き、救急医療を施すｴｷｽﾊﾟｰﾄです。

平成19年7月16日に新潟県中越沖地震が発生しました。当院は厚生労働省の要請により、日高病院DMATを派遣しました。地震発生直後、医療器材・食料・飲料水・を準備して、参集場所である柏崎市刈羽郡総合病院に、当日午後8時30分に到着しました。道路には陥没や亀裂があり、信号機も街灯もない真っ暗闇で幾度となく急ブレーキをかけ現地に到着しました。現地では、ライフラインが途絶えたなか不安な表情を浮かべている被災者の方々の巡回をしました。しかし、簡単な処置しか施してあげられない自分たちの無力さを痛感しました。 早急なライフラインの復旧と、被災者の方々が早期に通常の生活に戻ることを願ってやみません。今後、出動要請がないことを祈りながら万が一に備え日々の訓練、準備を怠らないようにしたいと思います。

日高病院DMATのﾒﾝﾊﾞｰ
新木医師、大塚・山岡看護師
手島看護師・間庭技師

災害対策委員長　新木　正隆

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ33
平成19年9月7日
日高病院病診連携室発行

～群馬大学放射線科との新たな連携～
日本初 治療計画画像を共有 テレカンファレンスシステムを導入しました

新たな連携の形態に着手
複数のがん拠点病院のネットワークのモデルケースに！！

● がん治療のいま

がん治療には手術・放射線治療・化学療法（抗がん剤による治療）など、さまざまな治療法があります。病気の種類や場所、進行度、また患者様の状態によって、ひとりひとりに必要な治療法は異なり、適切な治療法を選ぶことが大切です。
しかしながら、現在はさまざまな情報があふれ、新しい治療法が次々に開発されており、その全てを1人の医師が把握して治療していくのは難しくなってきています。そこで、外科医、放射線腫瘍医、内科医などさまざまな分野の専門家が、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽをして治療を決定していくことが必要とされています。

【 テレカンファレンスシステムの特徴 】

- **リアルタイムに画像を共有してカンファレンスを行うことができます。**
- **専用回線や暗号化などにより情報を安全にやりとりできます。**
- **放射線治療計画画像などを同時共有できる日本で初めての画期的なシステムです。**

● テレカンファレンスシステムとは

日高病院腫瘍センターでは、群馬大学医学部附属病院（放射線科）と連携し、テレカンファレンスシステムを導入致しました。
両病院を専用回線で結び、CTや放射線治療計画などの画像をお互いに提示しながらカンファレンスをすることができます。これにより、群馬大学医学部附属病院の専門の医師とカンファレンスを行うことで、質の高い最新の医療を提供できると考えています。
また、相互の患者様の紹介などもスムーズに行うことができるうえ、適切な場所で必要な医療を受けやすくなると考えられます。また、臨床研修医などの教育にも活かすことができ、将来的には、複数のがん拠点病院をつなぐネットワークのモデルケースになるものと期待されています。

● システム構成図

実際の患者様のカルテ・CT・MRIなどの画像の解像度をチェックし、高性能なｼｽﾃﾑであることが証明された。
群馬大学放射線科　中野教授と安藤院長自ら画面の解像度をチェックしながらカンファレンスをしている様子。

information

- 9月26日（水）18:30～　講演会『がん患者の心理・社会的苦痛の理解』 群馬大学保健学科教授　神田　清子先生
- 10月3日（水）18:30～　講演会『DM網膜症　失明原因日本一』 平成日高クリニック　村岡　兼光院長

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ34
平成19年10月31日
日高病院病診連携室発行

日高病院緩和ケアチームの紹介と活動報告

● 緩和ケアとは・・・

WHOでは「緩和ケアとは生命を脅かす疾患による問題に直面している患者や家族に対して、疾患の早期より痛み、身体問題や心理社会的問題、スピリチュアルな問題に関して評価を行い、それが障害とならないように予防したり対処したりQOLを改善するためのアプローチである」といわれています。つまり、緩和ケアとは身体症状のコントロールのみでなく、心のケアを同時に行いQOLを総合的に高めることを目的としているわけです。今後は、施設緩和ケアと在宅緩和ケアの複合なども視野に入れた総合的かつ全人的な緩和ケアチームとしての醸成をはかり、地域医療に貢献できるよう努力していく所存でございます。

緩和ケアチームリーダー
外科医長　竹部　兼太朗

● 緩和ケアチームの活動内容と今後の取り組み

緩和ケアチームが結成されて約1年が経過いたしました。本年からは各職種の専門性を高めるため勉強会を開始いたしました。チーム内のみならず、院内スタッフも共に学ぶことができる研修会を開催し患者様のご要望に十分応えることのできるチームを目指しております。

現在は入院患者様が主な対象者ですが、外来化学療法など通院中の患者様に対しての相談体制や、亡くなった患者様遺族へのケアも緩和ケアチームの重要な役割と考えております。　それらを今後の課題とし、患者様に対して親身に寄り添い、訴えを聴くことを大切にしてチーム一丸となって苦痛の緩和に努めてまいります。

看護師　村岡　やす子

緩和ケアチーム介入の流れ

主治医から緩和ケアチームに依頼
↓
緩和ケア担当医師が回診
↓
ケースカンファレンスで方針決定
精神科医師　看護師
薬剤師　栄養士
リハビリ　ソーシャルワーカー
在宅療養支援診療所医師
訪問看護師　ケアマネージャー
↓
自宅退院・転院・当院での看取り

左の写真は、群馬大学看護学科の神田教授を座長にお迎えし緩和ケアチームとしてシンポジウムを開催した様子です。　院内外の医療スタッフに緩和ケアチームの活動を理解頂くために開催いたしました。

平成19年10月10日　日高病院6階大会議室にて

初期臨床研修医4人内定
当院は4月より研修医を迎えます

10月18日に2007年度マッチングプログラムの結果が発表されました。当院の結果は、4人定員に対して4人マッチし充足率100%でした。
また、群馬県内では、臨床研修病院が15病院あり募集定員を満たし充足率100%となったのは、当院を含めて6病院でした。
初期臨床研修を充実させて、地域医療に貢献できる医師を養成できるよう努力したいと考えております。

臨床研修
9病院が定員割れ
研修医の流出加速
充足率低下し55%

上毛新聞10月19日版

information

12月10日（月）19:00～CPCを開催いたします。　於：日高病院6階大会議室
症例Ⅰ：80歳代男性　膀胱がん　　症例Ⅱ：60歳代男性　心不全
病理医：群馬大学応用腫瘍病理学　教授　中島　孝先生
同封のCPCのご案内を参照ください。多数のご参加をお待ちしております。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ35
平成19年12月7日
日高病院病診連携室発行

第4回～12月1日(土)～ 糖尿病教室を開催致しました

今回で、糖尿病初心者教室は第4回を迎えることができました。当院の教室の特徴は、経験豊富な各専門職種のサポートが1日で受けることが可能な点です。 現在、9名の糖尿病療養指導士の資格取得者が在籍しており、患者様に分かりやすく継続可能な指導内容を心がけております。

参加者は17名と小規模でアットホームな雰囲気のなか開催されました。540calの昼食を皆さんと頂きましたが、慣れないせいか満腹感を得ることができないという感想が多く聞かれました。

来年もさらに回数を重ねて、有意義な教室を開催したいと考えております。

糖尿病教室プログラム

時　間	内　　容	担　当
10:30～11:00	自分のからだ　－　きちんと健康管理していますか？	薬剤師　小倉　由子
11:00～11:30	糖尿病ってどんな病気？	看護師　　英　静
11:30～12:00	上手に食べて健康増進　　～食前の血糖検査を行います～	管理栄養士　比沢　裕佳
12:00～13:00	昼食 【ご自身の適正な食事量を実際に計って頂きます】	
13:00～14:30	手軽で安心なおやつ　コッソリ教えます！	管理栄養士　比沢　裕佳
13:30～14:00	どんな運動の仕方が良いの？	理学療法士　後閑　浩之
14:10～14:40	血糖値はどうして重要なの？　～食後の血糖値検査を行います～	検査技師　八束　眞一
14:40～15:10	糖尿病専門医からのメッセージ	糖尿病専門医　高橋　正樹

糖尿病サポートチームプログラム　information

- 短期教育入院をご用意できます　2泊3日コース・1週間コース・2週間コース
- 指導報告書を作成してお届けいたします
- 出張糖尿病教室を承ります

お問い合わせ先　日高病院　糖尿病ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ　担当　八束（やつづか）:027-362-6201

本年も大変お世話になりました

月	平成19年　日高病院の主な動き
2月	セカンドオピニオン外来とがん診療相談支援センターを開設いたしました。
3月	第4回 災害拠点病院として、高崎医師会・消防局と合同災害訓練を行いました。
4月	糖尿病サポートチームが本格稼動し、糖尿病教室開催や指導報告書を各診療所の先生方に説明させていただきました。
6月	日高在宅療養支援センター(ｼｮｰﾄｽﾃｲ・ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ・ﾍﾙﾊﾟｰ・訪問看護など)を開設いたしました。
	埼玉医科大学　小林教授をお招きし、外来化学療法室を開設いたしました。
7月	新潟県中越地震発生　当院DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣し現地で救助活動をいたしました。
8月	内視鏡室に高周波装置やアルゴンプラズマ凝固装置などを導入いたしました。
9月	日本初　テレカンファレンスシステムを導入し、群馬大学と放射線治療計画などが共有できるようになりました。
10月	臨床研修病院　マッチングプログラム4名がフルマッチし、来年度から4名の臨床研修医を迎える予定です。
11月	第6回地域医療支援病院運営委員会を各医師会長をはじめとした委員様、高崎病院様と合同で開催しました。

本年も、先生方には大変お世話になりました。来年はより充実した紙面と情報を盛りだくさんにしていける様、さらに努力したいと考えております。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ36
平成20年1月1日
日高病院病診連携室発行

本年もよろしくおねがい致します

今年度の診療報酬改定において、【診療所の夜間開業に対する評価】はｸﾘﾆｯｸの役割が明確になり病院間の競争はもとより、診療所間でも “差別化” と “淘汰”が激しさを増すことになりそうです。 改定率に着目するのでなく“どの項目の点数が増減した”という見極めが重要になります。 また、診療報酬改定と平行して、都道府県が主体となって4疾病5事業が展開され、医療機能分化や連携がさらに進むことが予測されます。 同時に病院機能の情報提供制度が開始され、医療の質が地域社会で評価されることになります。 このような時代の変化に対応し地域社会に貢献するため、以下の事項に取り組んでまいります。

- 急性期⇒回復期⇒在宅療養　という切れ目ない医療と福祉を提供いたします。
- 救急医療において今まで以上に専心し、地域貢献をいたします。
- 4疾病（5事業）に合わせた診療を行います。

【がん】
腫瘍センターにおいて診断、放射線治療、化学療法を充実させます。
【糖尿病】
糖尿病とその合併症に対して総合的（眼科・腎不全など）な治療を行います。
【脳血管障害】
回復期リハビリ病棟の機能向上を計り、積極的に患者の受入れをいたします。
【心筋梗塞】
埼玉医科大学の新浪教授を中心に心臓血管外科治療チームを立ち上げます。

本年も皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日高病院院長　　安藤　義孝

各教授による専門外来を開始いたします

大腸・肛門外来（第4週木曜日の午後）

福島県立医科大学
第二外科教授　竹之下　誠一先生

呼吸器内科・化学療法（第3週金曜日の午後）

埼玉医科大学国際医療センター
呼吸器内科教授　小林　国彦先生

心臓血管外科外来（第4週金曜日の午後）

埼玉医科大学教授
埼玉医科大学国際医療ｾﾝﾀｰ・心臓ｾﾝﾀｰ
心臓血管外科　診療科長　新浪　博先生

現在、新浪教授に指導を仰ぎ、心臓血管外科治療ﾁｰﾑの編成に向けて取り組んでおります。

新任医師のご紹介

ｺﾀﾞｲﾗ　ｱｷﾋﾛ
小平　明弘先生
平成2年　帝京大学卒
総合診療科

各科のｴｷｽﾊﾟｰﾄの先生への橋渡し役ができればと思っています。気軽にご相談ください。

ﾜﾀﾅﾍﾞ　ｱﾔｺ
渡邉　彩子先生
平成12年　福島医科大学卒
内科

勉強中の身ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

information

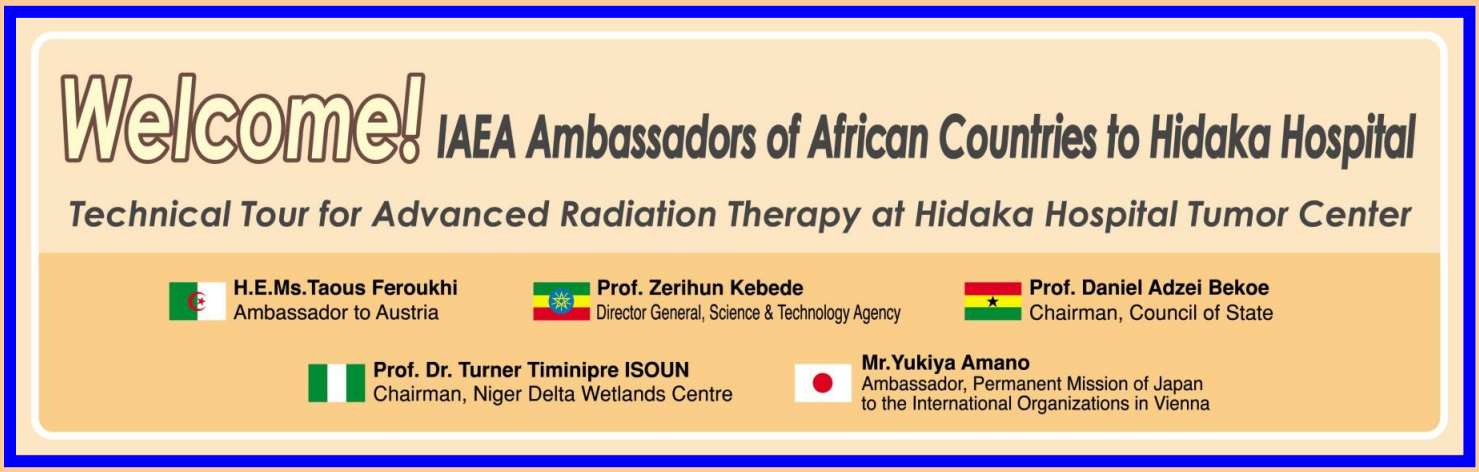
来年度の診療報酬改定、医療法改定は病院や診療所を問わず診療の質を迫られているものです。
緊急企画『診療報酬改定の問題点と対応策』～病院と診療所の役割と連携について～ と題して
株式会社イニシアの代表取締役COO　田原　一先生に講演して頂きます。同封のご案内をご覧ください。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病診連携通信【号外】

Ｎｏ38
平成20年2月21日
日高病院病診連携室発行

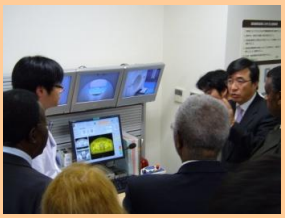
国際原子力機関（IAEA）アフリカ理事国大使団が来院！当院腫瘍センターを視察



【腫瘍センター受付にて記念撮影】

外務省より、日本の放射線治療分野で、放射線のみならず、重粒子線治療等の最先端治療等の先端研究・人材育成で日本をリードしている群馬大学に国際原子力機関（IAEA）アフリカ大使大使団による放射線治療現場の視察に対する要請がありました。　今回、群馬大学放射線科と連携してがん治療に活用している最新の放射線治療機器【トモセラピー】を有しているため、当院腫瘍センターの視察が実現しました。（平成20年1月30日）
群馬大学放射線科教授の中野隆史先生にトモセラピーの操作方法や治療効果の説明をしていただきました。当院の歴史に残る記念すべき日となりました。

多くの新聞・ﾃﾚﾋﾞｸﾙｰが取材に来ていました。


ﾄﾓｾﾗﾋﾟｰ操作室において群馬大学の中野教授が、治療効果などを説明している様子。

当院の放射線科河村先生によるﾄﾓｾﾗﾋﾟｰの説明の様子。

外務省　不拡散・科学原子力課科学長より礼状が届きました

拝啓
時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
　先日の国際原子力機関（IAEA）アフリカ理事招へいに際しましては、安藤理事長をはじめとする関係者の方々に、最新鋭の放射線治療に関しご説明を頂くなど、貴院から多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。今回の視察は、アフリカ理事国等に、我が国における原子力平和利用の取組等について理解を深めてもらう上で、極めて有意義かつ有益であり、参加者からも大変強い感銘を受けた旨の反応がありましたことをご報告いたします。
　ご多用中にもかかわらず、ご案内頂いた関係者の皆様に対し改めて感謝申し上げるとともに、引き続き、ご指導頂きたく宜しくお願い申し上げます。

（2月14日　礼状の原文から）

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ38
平成20年3月21日
日高病院病診連携室発行

福島医科大学第二外科の乳腺専門医が当院で外来を担当します

4月より、福島医科大学第二外科の大竹徹先生、安田満彦先生のお二人が乳腺外来を担当することになりました。 乳腺専門医である両先生に、紹介患者様の診察、手術、薬物療法を中心に治療をして頂きます。

火曜日(午前)	第2木曜日(午後)	第4木曜日(午後)
内田　信之先生	大竹　徹先生	安田　満彦先生

予約は代表電話にご連絡ください。連携室の職員がそのままご予約をお取りいたします。
TEL:027-362-6201　FAX:027-362-0217

群馬大学第一外科(乳腺)内田先生の外来も従来と変わりません。ぜひ、ご相談ください。

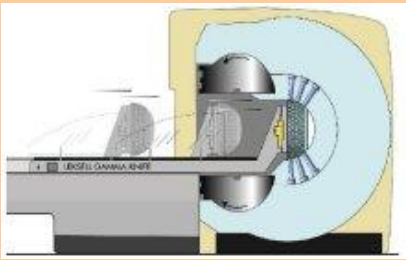
Japanese Board of Cancer Therapy
JBCT 日本がん治療認定医機構

当院は日本がん治療認定医機構認定研修施設です

本県では、群馬大学病院をはじめとして公立病院の18医療機関が認定施設になっております。医療法人では当院が唯一の認定施設であるため、その責任の重さを痛感しております。
認定研修施設とは、がん治療認定医として不可欠な知識、技能、臨床判断、心構えを習得するための環境を提供する施設です。臨床環境としては、様々ながん患者を入院、外来の両面で観察、管理する機会がなくてはなりません。また、研修者にはがんの自然経過、各種プログラムの有効性、悪い知らせを含め患者様に対して情報を伝える方法を学ぶため、急性期ならびに慢性期患者に対して継続して責任を負う機会を与えております。当院は教育医が3名、がん治療認定医が1名がおりがん治療認定医研修プログラムのリーダーとして活躍し緩和ケアチームへの教育も積極的に行っております。 今後もがん対策基本法の理念にのっとり「がん」に対して適切かつ最先端の治療が施せる医療機関を目指してまいります。

日高病院腫瘍センターの機能 ～ｶﾞﾝﾏﾅｲﾌについて～

ガンマナイフ治療 |「頭を切開せずに脳血管障害や脳腫瘍を治療する方法」



ｶﾞﾝﾏﾅｲﾌは、ｶﾛﾘﾝｽｶ大学脳外科のﾚｸｾﾙ教授によって開発されました。具体的には、201の細かいﾋﾞｰﾑ(ｺﾊﾞﾙﾄ60)を虫眼鏡の焦点のように病巣部にのみ照射する治療法です。適応病名としては、『聴神経腫瘍』『髄膜腫』『下垂体腫瘍』『転移性脳腫瘍』などです。また、『脳動静脈奇形』にも高い効果があります。

ガンマナイフ治療の仕組みと特徴 |

ｶﾞﾝﾏﾅｲﾌ本体には、頭部に装着されたｺﾘﾒｰﾀﾍﾙﾒｯﾄ(左記写真)の201個の穴を通じてｺﾊﾞﾙﾄ60から発生するｶﾞﾝﾏ線が病巣部に集中照射されます。照射時に貫通する頭皮、骨、脳、血管、神経への影響は少なく、照射を受けた病巣のみが徐々に凝固・壊死します。更に、照射の誤差は±0.5mmと高精度であるため、正常組織にほとんど影響を与えません。 しかし、病巣の大きさや位置、種類によってｶﾞﾝﾏﾅｲﾌによる治療が適している場合と、開頭手術が適している場合がありますので総合的な判断が大切になります。

ご相談窓口は病診連携室です。お気軽にお問い合わせください。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ39
平成20年5月10日
日高病院病診連携室発行

福島医科大学第二外科の乳腺専門医が当院で外来を担当します

4月より、福島医科大学第二外科の大竹徹先生、安田満彦先生のお二人が乳腺外来を担当することになりました。 乳腺専門医である両先生に、紹介患者様の診察、手術、薬物療法を中心に治療をして頂きます。

火曜日（午前）	第2木曜日（午後）	第4木曜日（午後）
内田　信之先生	大竹　徹先生	安田　満彦先生

予約は代表電話にご連絡ください。連携室の職員がそのままご予約をお取りいたします。
TEL：027-362-6201　FAX：027-362-0217

群馬大学第一外科（乳腺）内田先生の外来も従来と変わりません。ぜひ、ご相談ください。

各教授による専門外来をご案内いたします

大腸・肛門外来（第4週木曜日の午後）

福島県立医科大学
第二外科教授　竹之下　誠一先生

呼吸器内科・化学療法（第3週金曜日の午後）

埼玉医科大学国際医療センター
呼吸器内科教授　小林　国彦先生

心臓血管外科外来（第4週金曜日の午前）

埼玉医科大学教授
埼玉医科大学国際医療ｾﾝﾀｰ・心臓ｾﾝﾀｰ
心臓血管外科　診療科長　新浪　博先生

現在、新浪教授に指導を仰ぎ、心臓血管外科治療ﾁｰﾑの編成に向けて取り組んでおります。

日高病院腫瘍センターの機能（Part2）　～PET／CTについて～

検査による苦痛はほとんどなく
約2時間で全身のがん検査が可能です。

PETとは「ポジトロン断層撮影法」と呼ばれる画像診断です。がん細胞の代謝機能を調べることで、早期にがんの発見ができる検査です。がん細胞は正常細胞の3～8倍ものﾌﾞﾄﾞｳ糖を摂取特徴を利用し、ブドウ糖によく似た薬剤（FDG）を注射し、FDGが病巣に多く集積することによって微小ながんも画像に写し出します。PETとCTが一体型となったPET-CTでは、PETによる生体の機能画像とCTによる病態画像を重ね合わせた鮮明な画像を一度で撮影できるため、病変部の位置や正確な診断を速やかに行うことができるようになります。2次元、3次元の併用などフレキシブルな画像処理によって、微小ながんの発見や良性・悪性の適切な診断が可能でより正確な治療への貢献を致します。

日高病院腫瘍センターでは以下のサービスをご提供させていただいています

訪問説明サービス

初めての診察や検査を受けるにあたって、患者様が不安になってしまうケースもあるようです。この様な、患者様に検査手順など説明をさせて頂いたり、パンフレットなどをお持ちして施設説明などをさせて頂くサービスです。

送迎サービス

入院中の患者様がPET/CT検査などを受ける際、ご家族等がどうしても送迎できない場合もご相談ください。同日に数名の患者様のご予約を頂ければ送迎のご相談を賜ります。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ40
平成20年5月30日
高崎病院病診連携室発行

メタボ・糖尿病治療センターを開設いたします　平成20年6月オープン

厚生労働省の『糖尿病実態調査報告』によれば「糖尿病が強く疑われる人」は740万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせると1620万人を突破しており、現在その数はさらに増加しています。さらに、「糖尿病が強く疑われる人」のなかでも約半数は無治療であり、その中から多くの合併症を発症してきます。
そして、その傾向が続けば2010年には糖尿病関係医療費が膨大な金額になると言われています。したがって糖尿病の発症予防のみならず、糖尿病合併症の発症予防及び、進展防止は国民の健康維持、増進のために緊急の課題であります。このような、社会的理由を背景に当院で病診・病病連携に、最大の努力をはらっております。長い間大学生活を送っていた私にとって、最初は夢のような話でありました。しかしながら、30数年前カリフォルニア大学に留学していた頃アメリカでは既に病診・病病連携が行われており、自分の子供が病気の時に大変変助かったことを思い起こしました。 普段は診療所などの先生方とお互いに相談をしながら診療をすすめ、必要なときは当院に連絡していただき私共が診察させていただく、また再度先生方に紹介して診ていただく、、、このようなシステム作りのため全力をあげて頑張ってゆきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

メタボ・糖尿病治療センター
センター長　下村　洋之助

【 メタボ・糖尿病治療センター　外来一覧 】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	下村　洋之助	高橋　正樹	阿久澤　まさ子	下村　洋之助	今村　誠	高橋　正樹
午後	下村　洋之助	高橋　正樹	下村　洋之助	高橋　正樹	下村　洋之助	

【メタボ・糖尿病治療センター　医師紹介】

顧問	小林　功	群馬大学名誉教授　糖尿病学会専門医・指導医　内分泌代謝科専門医
センター長	下村　洋之助	内科学会認定医　糖尿病学会専門医　肥満学会評議員
診療部長	高橋　正樹	内科学会認定医　糖尿病学会専門医　内分泌代謝科専門医
内科主任医長	阿久澤　まさ子	内科学会認定医
医師	根岸　真由美	内科学会認定医・専門医　糖尿病学会専門医・指導医
医師	渡邉　彩子	
医師	今村　誠	内科学会専門医　糖尿病学会専門医　内分泌代謝科専門医・指導医

糖尿病サポートチームもさらに充実いたします　*当院は糖尿病療養指導士が9名おります*

- *指導報告書を作成してお届けいたします*
- *出張糖尿病教室を承ります*

【当院の糖尿病療養指導士】

佐竹　明美（看護師）	細谷　幸美（看護師）
真下　孝江（看護師）	八束　眞一（臨床検査技師）
田丸　裕子（看護師）	八束富美子（臨床検査技師）
山田　英美（看護師）	茂木みさ子（管理栄養士）
英　静　（看護師）	

私達、糖尿病サポートチームは患者様の生活状況を把握させていただき、その改善点を共に見い出すことのお手伝いをしております。 単に食事指導や運動指導をするだけでなく、患者様に寄り添いながら生活改善のきっかけをつくることにより、行動変容をおこすことが最大の目的であり使命であると痛感しております。
さらに、紹介いただいた患者様の報告シートを作成し、地域医療機関先生方の診療の参考にしていただけるように糖尿病サポートチームのスキル向上に努めたいと考えております。